

令和6年度

所沢市立教育センター研究紀要

◎ 所沢市立教育センター事業について

I 実践研究

II 専門研究

III 委託研究

埼玉県所沢市立教育センター

あいさつ

所沢市立教育センター
所長 中村 啓

所沢市立教育センターの研究員制度は、昭和47年度に始まり、令和6年度で53年目を迎える伝統ある制度です。教育センター研究員は、発足当初より、その時代の教育課題に対応し、理論と実践に基づいた先進的な研究を推進してきました。

現在、GIGAスクール構想が開始されて3年が経過し、児童生徒が1人1台端末を用いて学習を進められるようになりました。この背景には、研究員が活用方法を研究し研究成果を市内に還元したことにより、教職員や児童生徒のICT機器の活用力が向上したことがあると考えます。

「実践研究部」では、「主体的・対話的で深い学びを実現するために活用するICT」を共通テーマとして、算数・数学科、社会科、図画工作・美術科の3研究部が研究2年目を迎え、研究のまとめに取り組みました。指導者として、令和3年度から昨年度までの3年間、東京工業大学 赤堀 侃司 名誉教授より具体的かつ丁寧な御指導をいただきました。また、今年度より「令和の日本型学校教育」を新しい共通テーマに掲げ、東京学芸大学 西村 德行 教授を指導者として招聘し、研究の進め方等について御示唆をいただきました。

「専門研究部」では、教科等の専門性の高い研究を目指し、大学教授等からの指導を受け、国語科、算数・数学科、社会科、理科、道徳科、特別活動の6研究部が研究に取り組みました。大妻女子大学 樺山 敏郎 教授、十文字学園女子大学 日出間 均 教授、埼玉大学 桐谷 正信 教授、埼玉大学 中島 雅子 准教授、東京家政大学 鈴木 邦夫 特任准教授、玉川大学 川本 和孝 准教授には、研究員の所属校まで複数回、足を運んでいただき丁寧な御指導をいただきました。

「委託研究部」では、ESD調査研究協議会が「所沢のESD（持続可能な開発のための教育）の更なる普及」を課題として、先進的な調査・研究に取り組みました。指導者の学校法人湘南学園 住田 昌治 学園長には、今後の教育振興に資する御指導をいただきました。

御指導を賜りました皆様に心より御礼申し上げます。

研究員の皆さんには、情熱をもって研究に取り組み、研究成果をまとめられたことに敬意を表します。また、研究に対し御理解や御協力をいただいた校長先生や教職員の皆様への感謝を忘れず、所属校に研究成果をしっかりと還元することを期待します。

研究員所属校の校長先生をはじめ教職員の皆様におかれましては、研究員の出張や研究授業の実施等に対し、大変御多用にも関わらず、御理解と御協力をいただけましたこと、心より感謝を申し上げます。

研究紀要発行を迎えるに当たり、御指導・御支援くださいました全ての皆様に感謝申し上げます、教育センター所長からのあいさつとさせていただきます。

令和7年3月

令和6年度 所沢市立教育センター研究紀要 目次

目次

○ 教育センター事業	1
Ⅰ 実践研究	
1 算数・数学科実践研究部	7
「学ぶことの楽しさや成長を感じさせる算数・数学の授業づくり」	
2 社会科実践研究部	12
「児童・生徒が思考を共有し、自身の学びを深めるための授業づくり」	
3 図画工作・美術科実践研究部	17
「鑑賞活動を通して自己肯定感を高める図画工作」	
Ⅱ 専門研究	
1 国語科専門研究部	22
「個別最適な学びと協働的な学びを実現する国語科の授業の研究」 ～第三次に視点をあてて～	
2 算数・数学科専門研究部	34
「数学的な見方・考え方を生かした授業展開の工夫」	
3 社会科専門研究部	46
「個別に適した学びと協働的な学びを実現する児童の育成」 ～小学校社会科を通して～	
4 理科専門研究部	58
「児童生徒の自己評価能力の育成」	
5 道徳科専門研究部	70
「ユニバーサルデザインの視点を明確にした道徳授業の工夫」	
6 特別活動専門研究部	82
「友達のよさを見つけ、自分のよさにも気づく児童の育成」 ～自己肯定感を高める学級活動～	
Ⅲ 委託研究	
1 ESD調査研究協議会	94
「所沢市のESD」のさらなる普及	
2 これからのコンピュータネットワーク調査活用研究協議会	
◇令和7年3月にGoogleサイトで研究報告をいたします。	
3 副読本「ところざわ」及び白地図等編集研究協議会	
◇令和7年度版の社会科副読本を研究成果物として発行いたします。	

◎所沢市立教育センター事業について

教育センター事業 Good Practice!

- 令和6年度 所沢市立教育センター
事業の概要一覧

教育課題に対応した学力向上推進事業

資質向上事業

教育相談事業

I C T 教育事業

社会教育事業

◆ 調査・研究

☺ 心のエネルギープロジェクト

担当 主幹兼副所長

高鍋 英彦

令和6年度 所沢市立教育センター 事業の概要一覧

所沢市立教育センター 基本理念

教師一人一人が力をつけ、学校力を高め、子どもの生き抜く力を育む

学校力とは、「授業力」「学級経営力」それを支える「子どもへの愛情と理解」「組織力」

所沢市の教育の基本理念

みんなが持っている“3つの宝”を
掘り起こして大きく育てます

- 心身のたくましさ
- 未来を拓く知恵
- ふるさと所沢を愛する心

I 教育課題に対応した 学力向上推進事業

- <学校力>向上プログラム
 - ▶ 主体的・対話的で深い学びの実現を目指す授業づくり研修会（高島）
 - ▶ わかる授業づくり研修会（高島）
 - ▶ 道徳科授業づくり研修会（高島）
 - ▶ 特別活動授業づくり研修会（石坂）
 - ▶ ICTを活用した授業づくり研修会（森谷）
 - ▶ 県学調を活用した国語科授業づくり研修会【NEW】（石坂）
 - ▶ 県学調を活用した算数・数学科授業づくり研修会【NEW】（石坂）
 - ▶ ユニバーサルデザインの視点に立った授業づくり研修会（清水）
- 教科等指導力向上研修
 - ▶ 豊かな心育成研修会〔道徳〕〔人権〕〔特別活動〕【NEW】（高島・清水・石坂）
 - ▶ 小学校理科実験LABO（石坂）
 - ▶ TEA-II 研修会【NEW】（清水）
 - ▶ TEA-Plan II 英語授業づくりサポート【NEW】（清水）
- 小学校社会科副読本
 - ▶ 小学校社会科副読本作成委託（高島）

II 資質向上事業

- 経験者研修支援
 - ▶ 初任者研修（清水）
 - ▶ 初任者研修校内指導教員研修会（清水）
 - ▶ ステップ・アップ及びジャンプ・アップ研修（高島）
 - ▶ 5年経験者研修（清水）
 - ▶ 中堅教諭等資質向上研修（高島）
 - ▶ 20年経験者研修（清水）
- 資質向上研修
 - ▶ 新任・転入管理職研修会（高鍋）
 - ▶ 新採用・転入教職員研修会（石坂）
 - ▶ 学校組織マネジメント推進研修会（石坂）
 - ▶ 教務主任等研修会（石坂・森谷）
 - ▶ フレッシュマンセミナー（和田）
 - ▶ ミドルリーダー研修員研修（高島）
 - ▶ 研究員合同研修会（清水）
 - ▶ 事務職員のためのマネジメント研修会【休止】
 - ▶ 特定研修推薦・研修指導者等推薦専門研修（高島）
- 授業目的公衆送信補償金制度
 - ▶ 授業目的公衆送信補償金制度の活用（石坂）

III 教育相談事業

- 不登校解消・特別支援教育研修
 - ▶ 特別支援教育を担う教員養成研修会（大森）
 - ▶ 生徒指導・教育相談中級研修会（大森）
 - ▶ 不登校児童生徒への支援を学ぶ研修会（岡田香）
 - ▶ ゲートキーパー養成研修会（服部）
 - ▶ 気になる子への支援を学ぶ研修会（服部）
- 相談業務**
- ▶ 長期欠席児童生徒調査（服部）
 - ▶ 面接相談、巡回相談（大森）
 - ▶ 電話相談、子ども電話相談（大森）
 - ▶ SSW活用（大森）
 - ▶ 医療相談（大森）
 - ▶ 相談室啓発活動（大森）
 - ▶ 教育支援センター「クwest」（服部）

IV ICT推進事業

- ICT教育推進研修
 - ▶ ICT活用研修会（長谷川）
 - ▶ ICT教育推進リーダー研修会【NEW】（森谷）
 - ▶ 情報モラル研修会（森谷）
 - ▶ 情報セキュリティ研修会【NEW】（山本）
 - ▶ 中学校プログラミング教育研修会【NEW】（森谷）
- 教育ネットワーク
 - ▶ 教育ネットワーク運用・維持管理（山本）
 - ▶ ホームページ等維持・管理（森谷）
 - ▶ 校務用コンピュータに関する年度更新（酒井）
 - ▶ 学習者用コンピュータ（Chromebook）に関する年度更新（森谷）
 - ▶ 学習者用コンピュータ（Chromebook）更新（次回に向けて）（波多野）
 - ▶ デジタル教科書更新（コンテンツ配信サービス）（山本）
 - ▶ 学級数増加に伴うICT環境整備（山本）
 - ▶ コンピュータ等管理台帳電子化（酒井）

V 社会教育事業

- ▶ 16mmフィルム視聴覚機器整備貸出（岡田）
- ▶ 教科書センター運営管理（高鍋）

心のエネルギープロジェクト（大森）

- ① 子どもたち一人一人は、かけがえない存在であり、誰もが夢や希望を持てるようにしたい。
- ② 自分も友だちも大切にしたい。

という思いから、今年度も「自己肯定感」を育む取組を継続していきます。

TEA-Plan II

「所沢市外国語教育推進プラン」

小中学校7年間で英語によるコミュニケーション能力を育成し、グローバル化社会をたくましく生き抜く児童生徒の育成を目指します。

【令和9年度までの目標】
英検3級相当の英語力をもつ中学3年生の割合 **80%**

▶ トコろん学力向上プロジェクト関連

▶ 心のエネルギープロジェクト

▶ TEA-Plan II（英語教育）関係

学校支援

- ▶ センター講師派遣（高鍋）
- ▶ キャリア教育プログラム（和田）
- ▶ 英語指導助手派遣（清水）
- ▶ 小学校外国語支援員派遣（清水）
- ▶ 日本語サポーター派遣（和田）

調査・研究

- ▶ 専門研究部（高島）（国語、算数、社会、理科、道徳、特別活動）
- ▶ 副読本「とことろざわ」及び白地図等編集研究協議会（高島）
- ▶ ESD（持続可能な開発のための教育）調査研究協議会（石坂）
- ▶ 全国学力・学習状況調査（実施・分析）（清水）
- ▶ 埼玉県学力・学習調査（実施・分析）（高島）

- ▶ 校内研修等指導者派遣（高鍋）
- ▶ 教育資料収集、管理、提供（和田）

- ▶ 教育相談校内研修支援（岡田香）
- ▶ 教育相談アドバイザー支援（岡田香）

- ▶ 学ICT支援（酒井）

学 早稲田大学研究連携

- ▶ 授業実践研究部（清水）（国語、体育、T外国語活動・外国語、特別活動、算数、図工、社会）
- ▶ 学校事務研究部【休止】
- ▶ 市長期研修教員等研究会・発表会（石坂）

- ▶ これからのコンピュータネットワーク調査活用研究協議会（長谷川）
- ▶ ICT活用と効果に関する調査（酒井）



教育課題に対応した学力向上推進事業

1 本年度の重点

- (1)学校力の向上
- (2)社会の変化に対応した支援
- (3)英語教育（TEA-Plan II）の推進
- (4)センター講師派遣事業の見直し



2 好事例

- ・学校力の向上では、指導者を派遣する1回目の校内研修を指導主事が伴走支援したことで、各校の研究の方向性を明確にすることができた。
- ・どの指導者からの御指導も学校現場ですぐに生かすことのできる内容であったため、満足度の高い評価を得ることができた。
- ・TEA-Plan II 研修会では、公開授業の参観及び協議を通してICTの効果的な活用方法を知ることができ、多くの参会者より高い評価を得ることができた。

資質向上事業

1 本年度の重点

- (1)年次研修の確実な実施
- (2)教育資料提供方法の整理と活用促進



2 好事例

- ・「研究員中間報告会及び合同研修会②」にて、前年度専門研究員によるワークショップを実施した。研究成果の普及だけでなく、将来の所沢市の学校教育を支える指導者候補を育成することにも資する研修会となった。
- ・年次の浅い教員を対象とした「フレッシュマンセミナー」を新設し、8人の教員に計11回指導主事が訪問をした。対象者一人一人の困り感に寄り添い、親身になって指導・助言を行うことができた。

教育相談事業

1 本年度の重点

- (1) 学校力向上
- (2) 不登校児童生徒の支援
- (3) 子どもたちの生き抜く力の育成
- (4) 教育相談室の機能向上



多くの担任が活動を見学し、生徒と交流する機会を持つことができました。

2 好事例

○小1スタート支援

心理士が教室巡回し、対応を助言

○クウェスト集団活動 学校公開日

夏休みの活動日に合わせて実施

○不登校児童生徒への支援のための

情報提供（進路コーナー、HP等）

ロビーに資料を置くことで、多くの来庁者が利用しています。



ICT推進事業

1 本年度の重点

- (1) 社会の変化を見据えた研究・研修の実施
- (2) 児童生徒一人一台端末の効果的な活用
- (3) 学校のニーズに応じたICT支援



2 好事例

○校内におけるICT教育推進リーダーの育成

○授業でのICT機器の効果的な活用を推進

○市内小・中学校ホームページの更新支援



個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けたICTの活用事例

社会教育事業

1 本年度の重点

- (1) ニーズに応じた 16mm フィルム等の貸出の継続

2 好事例

- (1) 教育センターホームページに貸出方法、貸出目録を掲載し、利用しやすいようにしました。

約 650 本のフィルムの目録を閲覧できます



◆ 調査・研究

1 本年度の重点

- (1) 研究の質の担保
- (2) 研究員修了者に対する活躍の場の提供
- (3) 研究員希望者の増加

児童生徒の立場になり、体験的な活動を行いました。

2 好事例

- (1) 前年度、専門研究員によるワークショップ



🌟 心のエネルギープロジェクト

1 本年度の重点

(1) 子どもたちの生き抜く力を育むための
すべての教職員の共通理解

(2) 教師一人一人の自己肯定感をベースとした
授業力や学級経営力の向上

担任も一緒に「かけがえない自分」「周りの人のいいところ」を考えました。



2 好事例・フレッシュマンセミナー・ミドルリーダー

研修会等で、「自己肯定感の醸成」の支援・
指導の共通理解・実践事例集（R5）や所報
に具体的な実践事例を参考にした、各校の
実態に応じた工夫された取り組み

「なりたい自分」について、
一人一人が考えてシールを貼っ
ています。



実践研究

算数・数学科 実践研究部

研究主題

主体的・対話的で深い学びを実現するために活用する I C T

自ら学ぶことの楽しさや成長を感じさせる
算数・数学科の授業づくり
～効果的な I C T の活用を通して～

上新井小学校

横山麻奈美（リーダー）

牛沼小学校

田中 幸奈

和田小学校

岡部 大輝

所沢中学校

菊池 聡輔

美原中学校

坪内 稜

担当指導主事

岡田 香代

研究主題 自ら学ぶことの楽しさや成長を感じさせる
算数・数学の授業づくり

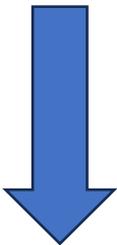
副 題 効果的なICTの活用を通して

研究主題について



アンケートから考えられる児童生徒の実態

- 算数・数学ともに教科の学習は好きではあるが、学年が上がるにつれて苦手意識が増してきている。
- 「ICT機器を使う学習が好き」「ICT機器を使った授業によって、理解が深まったことがある」と回答した児童生徒が多かった。



ICTを活用することで・・・

- 今まで理解しにくかった知識・技能を身につけられる。
- より深く対話や議論を進めることができ、多様な見方・考え方を獲得できる。



算数・数学を自ら学ぶことの楽しさや成長を感じられる！！

実践事例

- ①「ならした大きさを考えよう」（上新井小5年生 令和5年11月9日）
☆導入、ヒントでの動画活用
- ②「図形の性質と証明 4平行線と面積」（所沢中2年生 令和6年2月2日）
☆図形編集ソフト（GeoGebra）の活用
- ③「見方・考え方を深めよう（2）」（和田小2年生 令和6年9月27日）
☆考えの共有、考察での活用
- ④「一次関数の利用」（美原中2年生 令和6年10月31日）
☆school Takt、ムーブパーツの活用
- ⑤「面積」（牛沼小5年生 令和6年11月19日）
☆教科書二次元コードコンテンツの活用

興味関心を引き出す活用場面

① 導入場面での活用



導入やヒントの際に使う動画の作成



ムーブパーツの活用

- 「ならず」の意味を理解させるために、「高さをそろえずにでこぼこに積んだ積み木を同じ高さにそろえる」動画を導入場面で使用した。実際につみきが動く様子を視覚でとらえることで、教科書の場面設定よりも児童の興味関心を引き付けることができた。また、自力解決が難しくヒントを必要とする児童には「ジュースの量をならず」動画を使用することで、思考が整理しやすく効果的であった。
- 生徒の興味を引き出す工夫としてムーブパーツの活用も効果的であった。いっぺんに問題提示をするのではなく、頭の中で整理しながら問題をとらえられるようにムーブパーツを使いながら、生徒の実態、理解に合わせて問題提示ができた。また、あらかじめムーブパーツの下にヒントが隠されたページを用意した。自力解決に挑戦する生徒と自力解決が難しくヒントが必要である生徒、それぞれが自分に合った進め方を選択できるようにすることで、より主体的に問題解決に臨むことができた。

② 考えの共有を図る



画面上での考えの共有



大型テレビに映しての全体共有

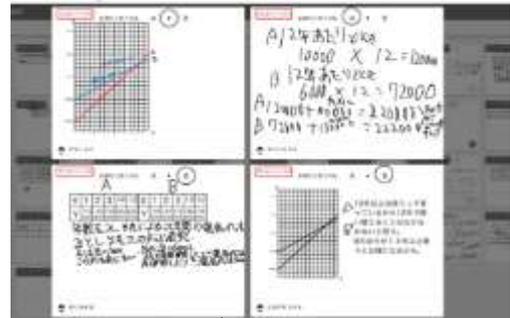
- 自力解決や小グループでの活動場面では、schoolTaktの「共同閲覧モード」にすることで、児童生徒がお互いの考えを見ることができた。算数・数学を苦手としている児童生徒も「友だちの考えを参考に自分の考えをまとめてみよう」と意欲的に参加していた。大型テレビでの全体共有では、児童生徒の考えたものを容易に全体に共有することができた。

学びが深まる活用場面

① schoolTakt を活用した授業展開



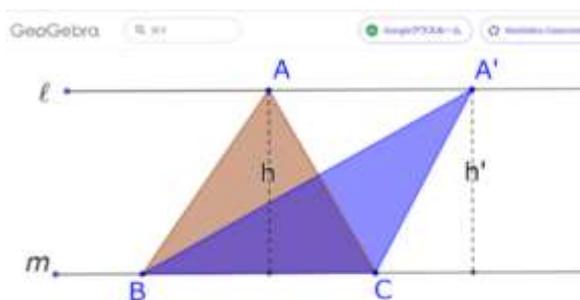
友達の考えを見ることができる



回答比較機能の活用

- schoolTakt の共同閲覧モードを活用することで、手元で自分の考えと友達の考えを比較して、自分の考えに自信を持つことや、新たな考え方を発見することができた。さまざまな考えに触れることにより、1つの考え方に捉われることなく、いろいろな角度から問題を見つめ多面的に考えることができた。また、拡大画面表示機能を活用することで児童生徒の考えをすぐに全体で共有し、比較することができた。

② 画像、動画、二次元コードコンテンツの活用



画面上での操作で図形の変化を捉える



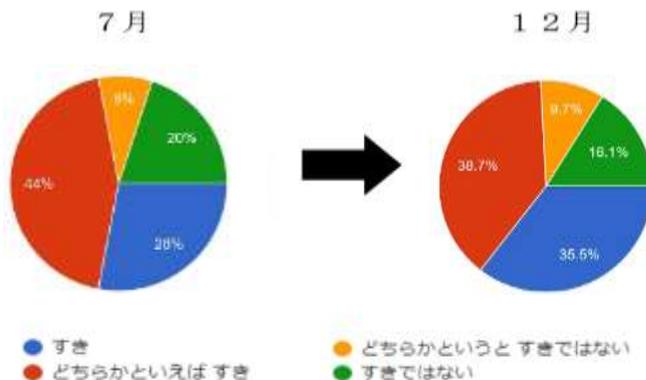
二次元コードコンテンツ

- 「GeoGebra」を活用することで、等積変形のイメージをつかむことができた。図形を動かしたり、変形できたりする場合に有効的であった。教科書の二次元コードコンテンツも、平行四辺形や台形などの図形を等積変形したり、分割したりする際に有効であった。間違えてもすぐに元の図形に戻せるため、苦手意識を持つ児童も気軽に取り組むことができ、何度もチャレンジしていた。

児童生徒の変容

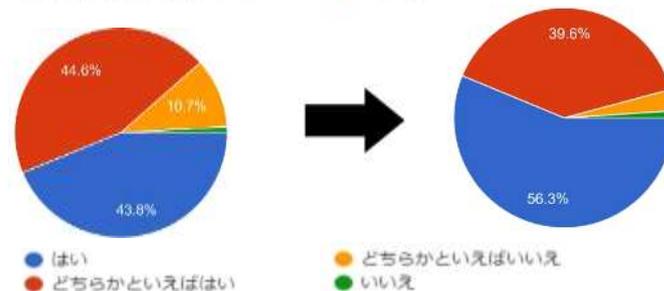
質問1

算数・数学は好きですか？



質問2

ICT機器を使ってわかるようになったことはありますか？



○考察

質問1において、「好き」「どちらかといえば好き」と肯定的な回答をした児童生徒の割合が増加した。ICT機器を有効的に活用し、算数・数学が苦手な児童生徒についても「わかる」「できる」を実感したことが要因だと考える。

成果と課題

○成果

・動画を使った導入

→教科書で設定されている場面設定より、興味関心を惹きつけることができた。

・schoolTaktの活用

- ①自力解決が難しい児童生徒が友達の考えを参考にできた。
- ②考えのある児童生徒が自分の考えに自信を持てたり、違いについて深く考えたりすることができた。
- ③教師が児童生徒の活動の様子を画面上で把握することができた。
- ④全体での考えの共有が容易であった。大きな画面でも、手元でも可能であった。
- ⑤考えを分類する際に画面上で操作をして便利に活用できた。
- ⑥ムーブパーツで隠す、ヒント用のスライドを用意できる。必要な人だけが見ることができ、苦手な児童生徒もヒントがあればやってみようという気持ちになっていた。

・GeoGebraを使った活動

→図形を動かして視覚的に変化を見とることができた。イメージが付きやすかった。

・二次元コードコンテンツを使った活動

→図形の移動や分割などがイメージしやすく便利であった。間違えても元の図形にすぐ戻せるため苦手な児童生徒もすぐに取り掛かることができた。

○課題

・Chromebookとノートとの併用が難しい場合があった。

- 小学校だと、入力に時間のかかる児童もいるためChromebookが効果的な場面の見極めが必要である。
- 普段からノートを中心に学習を進める児童生徒への配慮が必要である。

実践研究

社会科 実践研究部

研究主題

主体的・対話的で深い学びを実現するために活用するICT

～児童生徒が思考を共有し、
深めるための授業づくり～

林小学校	奥沢 瑛（リーダー）
西富小学校	佐々木祐太
宮前小学校	市川遥一朗
美原中学校	河野ちひろ

担当指導主事

高島 忍

研究主題

主体的で対話的で深い学びを実現するために活用するICT
～児童生徒が思考を共有し、深めるための授業づくり～

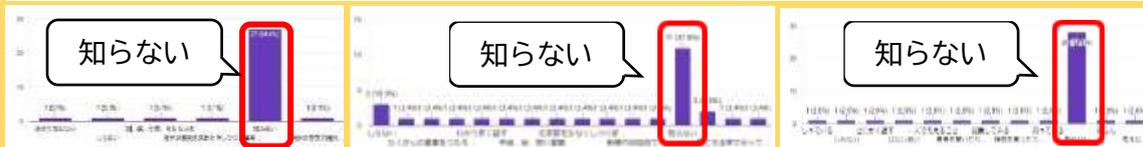
研究主題について

1 児童生徒の実態

現代の教育において「主体的・対話的で深い学び」の実現が重視されている。個の学びの形態は単なる知識の習得にとどまらず、児童生徒が主体的に課題を設定し、対話を通じて多角的に考察しながら、より深い理解へ到達することを目的としている。そのためには、従来の一斉講義型の授業だけではなく、児童生徒同士の協働や個別最適化された学びを支援する環境が求められる。そこで、ICTを適切に導入することで、個々の習熟度に応じた教材提供をしたり可視化された教材提示をすることで興味関心を掻き立て深い理解へつなげたりすることができるのではないかと考えた。

一方で、活動が画面越しになることでコミュニケーション能力が低下したり、情報の信頼性を判断する力が欠如したりするなどといった問題も浮上している。以下、3つの小中学校の児童生徒を対象にしたコミュニケーション能力に係るアンケート結果を示す。

質問 自分の考えを伝えるために効果的な方法を知っていますか。(知らない場合は「知らない」と書いてください。)



否定的な回答の中には「効果的に自分の考えを伝える方法が分からない。」「友だちの考えを知るのは好きだけど、それをもとにさらに考えることが苦手。」という否定的回答が多いことから、コミュニケーション能力向上による対話的で深い学びの実現は喫緊の課題となる。

2 研究仮説

- ① ICTを効果的に使えば、自分の考えを主体的に発信することができるようになるだろう。
- ② ICTを使った共有場面を設けることで、思考が可視化され共有しやすくなり、学びが深まるだろう。

1

研究主題に迫るための取組

2

ICTを用いた導入及び自力解決場面、共有場面を設定した授業を実践する。

「学びを深める」とは何なのかについて研究員で問い直し、対話的で深い学びを目指した授業を実践する。

研究主題に迫るための具体的な取組

I 研究方法



- (1) 興味関心を掻き立てるICTを用いた既習事項の確認
- (2) UDの視点を生かした教材提示
- (3) ICTを活用した考える手立ての提示
- (4) 個人で考える時間の確保
- (5) 思考の流れを整理したデジタルワークシートの活用
- (6) 自他の考えを比較・検討しやすくする思考ツールの導入
- (7) 思考を深めるための教師による適切な支援

実践①（中学2年生） 「江戸幕府の成立と政治の働き」

個人で考える 時間の確保

考えがまとまらないまま話合いの時間となり、自分の意見を伝えられないということがないように、個人で考える時間を確保した。

ICTを活用した 考える手立ての提示



Jamboard を用いて意見を共有し、他の生徒の表現方法を学ぶことで協働学習の効果をさらに感じられるように工夫した。

思考を深めるための 教師による適切な支援

意見の共有にとどまらず、考えを深めるところまでグループワークで行うために、タイミングを見て教師からのサポートを行った。

実践②（小学4年生） 「ごみの処理とさい利用」

効果的に意見を伝え合う ICTの活用



ICTを用いることで、個人の活動時に他者の考えを参考にすることができるようにした。

思考の流れを整理したデジタル ワークシートの活用



クロームブックで提示した資料を分類・整理したうえで深めることができるように、思考の流れが分かりやすいワークシートを活用した。

実践③（小学5年生） 「これからの食糧生産と私たち」

興味関心を掻き立てるICT (Kahoot!)を用いた既習事項の確認



既習事項や本単元に関わる内容についての呟きや児童同士がやりとりを自然と行う姿が多く見られた。

本教材の特性であるクイズ形式は、本時の展開の時間の確保につなげるよう短く制限された時間を設定した。また、クイズの内容に既習事項や本時に関わる内容を扱うことで、学習問題への興味関心を引き出し、既習事項と本単元の学習を結び付けるなどして動機付けることができた。

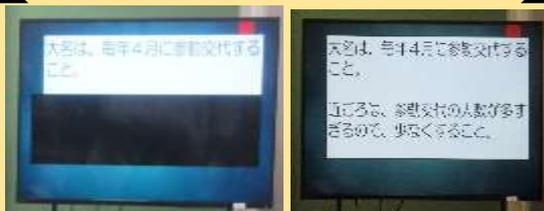
自他の考えを比較・検討しやすく する思考ツールの導入



ICT (Google スライド) を用いて全員の意見を集約することで、効率的に共有を図ることができた。また、出された意見の付箋の色を自由に変えることができたため、自分と他者の意見と比べたりグループで意見を分類したりする活動を通して、児童が自分の考えを深めることができた。

実践④（小学6年生） 「江戸幕府と政治の安定」

UDの視点を生かした教材提示



資料の注目させたい部分を黒でマスキングし、内容を見童に予想させてから提示した。「参勤交代の人数を少なくすること」に思考を焦点化し、経済的な負担を大名に強いことが幕府のねらいではなかったことに気付かせる動機付けとした。また、学習内容に係るアプローチだけでなく、重要部分を隠すことで興味関心を掻き立てる手立てにもなった。

自他の考えを比較・検討しやすく する思考ツールの導入



学習問題「江戸幕府が260年も安定して続いたのは、誰の、どのような政策があったからだろうか」について、ピラミッドチャートを用いてランク付けをした。まとめでは、その理由について文章でまとめたり、児童同士で見合ったりした。様々なチャートがある中ピラミッドチャートを用いたことは、学習内容を焦点化させるための良い手法となった。

成果と課題

1 仮説1「ICTの効果的活用」について

(1) 成果

- ・Jamboard を用いてグルーピングを行ったことは、取り上げた事象ごとに関心のある児童生徒が集まることとなり、課題解決に向けた対話的で深い学びをするに至った。
- ・導入時に Kahoot! を用いて既習事項をクイズで振り返ったことにより、児童生徒がゲーム感覚で楽しみながら学習内容にふれるとともに、児童生徒同士の交流が自然と生まれることで知識の定着を図るきっかけとなった。
- ・Google スライドを用いて導入を行うことで、学習内容を焦点化するとともに、児童が集中しやすい学習環境を整えることができた。
- ・活用する場を多く設けることで、児童生徒がICTに慣れ親しみ、進んで使用する機会が増えた。
- ・授業の終末においてもICTを活用することにより、振り返りを蓄積するとともにいつでも容易に自身の学びを振り返るようになった。

(2) 課題

- ・ICT機器の操作に気を取られてしまうことがあったため、活用方法については、必要な情報を精選するなどの取捨選択をする経験も必要である。
- ・ICT機器を用いて教員が学習内容を焦点化し過ぎてしまうと、児童生徒が指示に従うだけで、深く考えなくなる可能性がある。

2 仮説2「『学びを深める』の定義付け及び実践」について

(1) 成果

「学びを深める」とは、「自分の考えをもち、資料や友達の考えから新たな知識を得たうえで、再度自分の考えをもつこと。」と定義付けたことにより、教師のもつ学習指導のゴールが明確化されたため、授業の展開がスムーズになった。

(2) 課題

定義付けた「学びを深める」活動にICTの活用を入れると、活動の焦点化ができず、時間内に終わらせることができなかった。

3 まとめ

ICTの活用は児童生徒の興味関心を掻き立てるとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するために、有効である。しかし、ICTの導入において教師側の意図によって学びが深まらない恐れがあることがわかった。そこで、教科の目標や特性、学習内容に応じてICTを適切に導入することが大切であるため、今後も児童生徒が主体的・対話的で深い学びを実現することができるようICTのよりよい活用方法について研究していく。

実践研究

図画工作・美術科 実践研究部

研究主題

主体的・対話的で深い学びを実現するために活用するICT

～鑑賞活動を通して自己肯定感を高める図画工作～

美原小学校

堂東絵莉子（リーダー）

林小学校

原田 綾音

山口小学校

笠原健太郎

担当指導主事

服部 環

主題設定理由 図画工作科における ICT を使用した鑑賞活動

児童自身がICTの活用に慣れてきて、図画工作・美術科においてICTは鑑賞活動に多く取り入れられているのではないかと推察する。鑑賞活動を通して児童が失敗を恐れずに楽しめるような心情をはぐくんでいきたい。そのためには明確な目的意識を持って鑑賞活動を行う必要があるのではないだろうか。鑑賞活動において、ICTの活用と鑑賞の取り入れ方を意図的に設定することで、楽しんで授業に参加する児童の姿につなげたい。

そこで、鑑賞活動を単元により効果的に取り入れることができれば、児童の自己肯定感を育て、得意・不得意に関係なく「もっとやりたい」と思う児童を育てることができるのではないかと考えた。

仮説

- I 導入で鑑賞活動を取り入れることで、作品のイメージが湧き、意欲的に取り組めるだろう。
- II 途中鑑賞を取り入れることで児童同士の会話が生まれ、自分の作品づくりに生かせるだろう。
- III 終末で鑑賞活動を取り入れることで、自分の作品に更に愛着を持つことができるだろう。

得意・不得意に関係なく「もっとやりたい!」と思う子どもたちを増やしたい!

対話を増やし、自分の作品づくりに生かせる鑑賞活動を展開したい!



※実践報告 I~IVの中で、上記の視点に係る部分を網掛けで表記する。

手立て①【導入での鑑賞活動】

- ・導入で有名な絵画、立体作品を見せる。
- ・感じたことや、イメージを広げ児童同士で共有する。

手立て②【途中鑑賞】

- ・作り途中で作品を見て、互いの良さや新たなアイデアを発見させる。
- ・友達のアドバイスを受け、更に自分の作品がよくなりそうだと希望を持たせる。
- ・自分では思い付かなかったアイデアを取り入れ、考えが広がる楽しさを知る。

手立て③【終末での鑑賞活動】

- ・友達と作品を見合い、思ったことを話し合うことで自分の作品に愛着を持たせる。
- ・自分には気づかなかった作品のよさに気づく。



授業実践Ⅰ

【導入での鑑賞活動】 「すきな色ですてきな花を」 第3学年

①導入時、児童の作品を鑑賞する。

今までの児童の作品や有名な絵画などから、気づいたことを発表する。

「もようがカラフル!」 「葉はくきから生えているんだね。」

「星の形みたいだ!」 「真ん中に、何か白いものがあるよ。何かな?」



②「クローム描画キャンパス」を使って花の形をなぞる。

「花をどこから見るのかで、見え方がちがうんだね。」

「花びらは何枚も重なっているんだ!」 「こんな色の花があったらいいな。」

「すごい!上手に描けたよ。嬉しいな!画用紙に描くのが楽しみだな!」

・「描きたい!」と思う気持ちの育成

・「自由に描いていいんだ!」という思考の広がり

・「上手に描けそう!」という自己肯定感の高まり



授業実践Ⅱ

【途中鑑賞】 「ふわふわ空気をつみ木」 第3学年

①作品を作っている途中で、「お気に入りの場所」を探しに行き写真に撮る。

制作途中で、友達の作品の「お気に入り」を写真に撮り合う。

・「こんなに高く積み上げることもできるんだ!」

・「つい触りたくなる形だね。」 「この組み合わせがいいな。」



②友達の作品の良さを、自分の作品に取り入れる。

自分の作品に生かしたいところを見つけ、実際にやってみる。

・「ぼくもこんな形にしたいな!どうやって作ったの?」

・「次はいっしょにやろうよ!」 「私の作品、ここがお気に入りだよ!」

・友達の作品を参考に、自分の作品をよりよくしようとする力

・友達の作品や自分の作品について、対話が生まれる。



授業実践Ⅲ

【途中鑑賞】 「ほって表す不思議な花」 第4学年

①小グループで、無記名の作品を鑑賞をする。

★どんなところが素敵かな？気になることはある？

- ・「ここの形が素敵だね。」
- ・「この模様どうやって彫ったのかな？」→対話が生まれる。



②作品の良さや、アドバイスを付箋に書く。

★もっと良くするためにはどうしたらいいと思うかな？

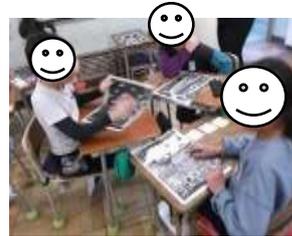
- ・「青色が似合いそう。」
- ・「2色で塗るのはどうかな？」



・「青色で塗ってみようかな」と次につなげることができる。

・「この色が合うかも!」と新たなアイデアを発見できる。

・無記名とICTなしという鑑賞スタイルで対話が多く生まれた。



授業実践Ⅳ

【終末での鑑賞活動】 「すけるんたんじょう」 第2学年

①できあがった作品を、教室の好きな所に飾り、鑑賞し合う。

・窓側や机の下など、好きな場所に飾りに行く。

「体におひさまの光を当てたいから、窓の近くにぶらさげよう」

「静かで暗い所にいるんだ。」「友達のすけるんと、遊んでいるよ。」



②「お気に入り」の作品を見つけ、発表する。

・お気に入りの作品を発表し、どこが気に入ったのか言葉で表現する。

「ぼくの作品をお気に入りで発表してくれた!嬉しいな。」

「どうしてあの場所に飾ったのか、聞いてみたいな。」



・自分の作品に愛着を持ち、より深く作品について考える力

・お気に入りを発表し合い、対話が生まれる

・友達に認められるという自己肯定感の高まり、もっと見てほしいと思う気持ちの育成



研究の成果

【導入での鑑賞活動】

- ・作品の完成イメージを持つことができ、何を描けばよいのかが分かったことで、普段手が止まってしまうような児童も取り掛かりがよくなった。また、“自分にもできそうかも!”という前向きな気持ちを持ちながら、意欲的に作品作りに取り組むことができた。

【途中鑑賞】

- ・友達作品の良さを聞いたり、自分の作品について話したりすることで対話が生まれる。「いいね!」「すてきだね!」と、直接言われることで、自分の作品に自信を持って作っている姿が見られた。作品作りの途中でも「見て見て!」と、自分の作品に自信を持つ児童が増えた。
- ・友達作品を見ることで、ある程度作り終わってしまっている児童も、「もっとできることがあるかも!」「○○さんの参考にしてみよう。」など、自分の作品をもっとよくしようと工夫することができた。

【終末での鑑賞活動】

- ・紹介する際に、自分の作品について深く考えることでよさに気づく。さらに、友達からのコメントで、自己肯定感が高まり、自分の作品に愛着を持つことができた。

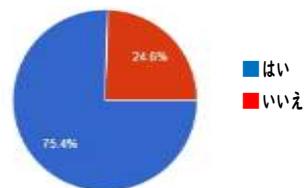
研究の課題

- ・授業前、授業後に行ったアンケートの結果、「鑑賞は好きですか?」問いに対する回答が、「好き」「どちらかという好き」と答えた児童の割合が、80.7%から79%と多少であるが下がっている。また、「苦手」と答えた児童の割合が2.4%から12.3%に上がっている。鑑賞が苦手な理由として、「何を伝えたら良いかわからない」という回答が数多く見られた。鑑賞の視点を丁寧に指導する必要がある。

★鑑賞は好きですか?



★友達のアドバイスを作品作りの参考にしたことがありますか?



- ・また、実施後「図工の学習で友達のアドバイスを作品作りの参考にしたことがありますか?」という問いに対する回答で、「はい」と答えた児童は75.4%であった。4人に3人が、友達のアドバイスを作品作りに生かすことができたと感じている。より、鑑賞活動を自分の作品作りに生かせるような取り組みを考えたい。
- ・Ⅲの実践例では児童の Chromebook を使わずに鑑賞活動を行った。パソコンの画面を見るだけの授業を展開してしまうと、児童同士の会話がどうしても減ってしまう。自分の作品に自信を持って友達に見せて、「これいいね!」とプラスの言葉が溢れる授業を展開したい。

参考文献

文部科学省(2017年)「小学校学習指導要領 図画工作編」日本文教出版